

★上記の性感染症に感染する可能性を下げるには、コンドームなどを使ったセーフティーセックスが大切です。セーフティーセックスに関する詳しい情報は、「あなたと、あなたのイイ人へ」（独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 臨床研究部免疫研究室、免疫感染症科 2004年3月）をお読み下さい。



イラスト 山元彰乃

<参考文献・Web>

- 1) Interactions and dangerous. Liaison Interactions between anti HIV and recreational(party) drugs. Australian Federation of AIDS Organizations (AFAO) P.12 13, 1998 NAPWA
- 2) HIV+GAY SEX. A booklet mostly about sex for HIV+gay men & useful reading for all gay men. Australian Federation of AIDS Organizations (AFAO). P.12 13, 1998
- 3) 山野尚美 『薬物依存とは何か』改訂版, Freedom 1995
- 4) <http://www.thebody.com/index.shtml>
- 5) Day, C., Dolan, K., Post, J. Drugs & Bugs: A guide to injecting drug use and infections. NDARC, UNSW, 2001, Australia
- 6) C型肝炎について（一般的なQ&A）. (<http://www.nhfw.go.jp>) 厚生労働省, 2003
- 7) B型肝炎について（一般的なQ&A）. (<http://www.nhfw.go.jp>) 厚生労働省, 2004
- 8) Last night I picked up someone ...and something! Acon, Australia. 2003
- 9) HIV POSITIVE WOMEN HAVE. Alive & Kicking! (55). 1996
- 10) HIV+GAY SEX. Gay Education Strategies Project. Australian Federation of AIDS Organizations (AFAO), 1998
- 11) 『性感染症』監修 エイズ予防財団, 2003
- 12) 『あなたと、あなたのイイひとへ』独立行政法人国立病院機構大阪医療センター臨床研究部免疫感染症研究室・免疫感染症科, 2004

<Medical Advisers>

松浦基夫 (市立堺病院 腎代謝免疫内科部長)
 白野倫徳 (大阪市立総合医療センター 感染症センター医師)
 藤純一郎 (東京女子医大 感染症科医師)

編集：平成16年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
 個別施策層に対する固有の対策に関する研究班
 （主任研究者：梅井正義）

【資料5-2】 ハームミニマイゼーション

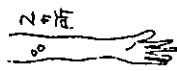
引き抜く際には、清潔な消毒綿でその部位を抑え、その後その部位にバンドエイドを貼ってください。



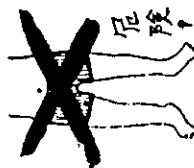
1. 常に清潔な注射針・注射器を使用し、絶対に他人と共用しないこと
新しい注射器・注射針が入手困難な場合は、過去に自分だけが使用した注射針・注射器を以下の取り扱いにしたがって清潔にしてから使用してください。



2. 注射をする部位を洗えること
常に同じ静脈に注射することは避けてください。少なくとも二つ以上の部位を選んで、その部位に対して交互に打つようにしてください。



3. 腕より下の部位からの注人は絶対に避けること
非常に危険です



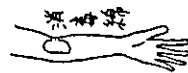
4. 必ず止血帯（注入する静脈をみつけやすくするために腕に巻きつける毛布）を用いること

ただし、この止血帯に関しても血液が付着するおそれがありますので、他人とは共用せず、自分用のものだけを使用してください。



5. 消毒綿を必ず使うこと

注入する前に必ずその注入部位を消毒綿で清潔にしてください。一度使用した消毒綿を再度使用することは避けてください。注入後、注射針を静脈から



6. タバコのフィルターを使用しないこと
フィルターとしてタバコのフィルターを使用しないでください。タバコのフィルターには、静脈に損傷を与える微細な繊維が含まれています。フィルターには脱脂綿や消毒綿のカドを使用してください。また、パクテリアやウイルスはフィルターの途中で増殖する可能性があるので、一度使用したフィルターを再度使用することは避けてください。





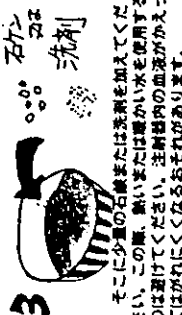
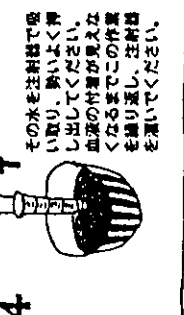
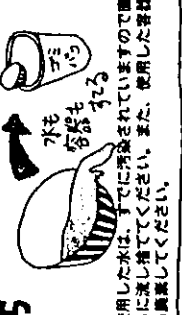
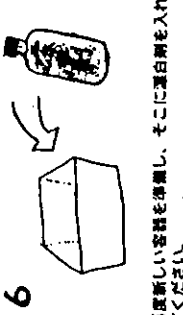
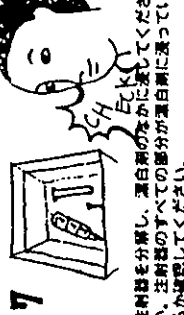


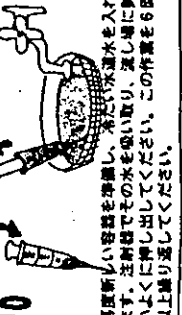
7. 薬物を混ぜる際には必ず減量した水を使用すること
清潔な水がない場合に、尿池水やジュースなどを代用し薬物を溶かすのはやめてください。



新しい注射針・注射器が入手できない場合

(使用済みの注射針・注射器を清潔にする)

常に新しく殺菌された注射針・注射器を使用することが感染症を回避する最善の方法ですが、新しく殺菌された注射針・注射器が入手できない場合には、まず吸引など他の方法を試みてください。もし、他の方法に変えることができない場合には、過去に自分だけが使用した注射針・注射器を清潔にしたうえで再度使用してください。この際、過去に他人が使用したものは必ず避けてください。注射器内のすべてのウイルスが殺菌されたかどうかは確かめようがないからです。もし、自分が過去に使用した注射針・注射器を再度使用しなければならぬ場合には、21ページの方法にしたがい注射針・注射器を清潔にしてください。

<p>1</p>  <p>まず自分の手を石鹸を使って洗ってください</p>	<p>2</p>  <p>水道水を入れた容器をゆすいでください</p>	<p>3</p>  <p>石けん 洗剤</p> <p>そこに少量の石鹸または洗剤を加えてください。この際、熱いまたは暖かい水を使用するのは避けてください。注射器内の血液がかえってほかにくくなるおそれがあります。</p>	<p>4</p>  <p>その水を注射器で吸い取り、熱いよく押し出してください。血液の付着が見えなくなるまでこの作業を繰り返し、注射器を洗いってください。</p>	<p>5</p>  <p>水も 容器も ゆすぶる</p> <p>使用した水は、すでに消毒されていますので簡単に洗い捨ててください。また、使用した容器も消毒してください。</p>	<p>6</p>  <p>再度新しい容器を準備し、そこに漂白剤を入れてください</p>	<p>7</p>  <p>注射器を分解し、漂白剤のなかに浸してください。注射器のすべての部分が漂白剤に浸っているか確認してください。</p>	<p>8</p>  <p>2分以上</p> <p>2分以上注射器を漂白剤に浸しておいてください。</p>	<p>9</p>  <p>漂白剤を注射器から熱いよく押し出し、再度手洗8を繰り返してください。</p>	<p>10</p>  <p>再度新しい容器を準備し、冷たい水道水を入れ、注射器でその水を吸い取り、流し場に熱いよく押し出してください。この作業を6回以上繰り返し行ってください。</p>
---	---	---	--	--	---	--	--	--	--

この方法はThe Australia IV Leagueが推奨している方法です。

【資料 5-3】

冊子「こころとからだのヘルスプロモーション」について、以下の質問項目にご回答をお願い致します。

ご記入日（平成 17 年 月 日）

あなたのお立場について、お伺いします。当てはまるものの数字を○で囲んでください。

- （ 1. 当事者（PHA） 2. NGO スタッフ 3. カウンセラー 4. 保健師 5. 看護師 6. 医師
7. 薬剤師 ）

当てはまるものを一つだけ選び、その数字を○で囲んでください。お立場にかかわらずスタッフにとって>と<当事者の方にとって>の両方について、お答えください。

<情報量>

1. 「1章 HIV 感染後のメンタルヘルス」の情報量について

- 当事者の方にとって： 1. 多すぎる 2. やや多い 3. 適切 4. やや少ない 5. 少なすぎる
スタッフにとって： 1. 多すぎる 2. やや多い 3. 適切 4. やや少ない 5. 少なすぎる

2. 「2章 抗 HIV 剤の効果に影響する薬物使用」の情報量について

- 当事者の方にとって： 1. 多すぎる 2. やや多い 3. 適切 4. やや少ない 5. 少なすぎる
スタッフにとって： 1. 多すぎる 2. やや多い 3. 適切 4. やや少ない 5. 少なすぎる

3. 「3章 服薬管理の安定を妨げる薬物使用」の情報量について

- 当事者の方にとって： 1. 多すぎる 2. やや多い 3. 適切 4. やや少ない 5. 少なすぎる
スタッフにとって： 1. 多すぎる 2. やや多い 3. 適切 4. やや少ない 5. 少なすぎる

4. 「4章 血液を媒体とする感染症」の情報量について

- 当事者の方にとって： 1. 多すぎる 2. やや多い 3. 適切 4. やや少ない 5. 少なすぎる
スタッフにとって： 1. 多すぎる 2. やや多い 3. 適切 4. やや少ない 5. 少なすぎる

5. 「5章 性感染症と HIV に対する影響」の情報量について

- 当事者の方にとって： 1. 多すぎる 2. やや多い 3. 適切 4. やや少ない 5. 少なすぎる
スタッフにとって： 1. 多すぎる 2. やや多い 3. 適切 4. やや少ない 5. 少なすぎる

6. 「この冊子全体」の情報量について

- 当事者の方にとって： 1. 多すぎる 2. やや多い 3. 適切 4. やや少ない 5. 少なすぎる
スタッフにとって： 1. 多すぎる 2. やや多い 3. 適切 4. やや少ない 5. 少なすぎる

対になった言葉の間にある（ ）内の数字の中から、一番近いものを選んで○で囲んでください。小さな数字は左側に書かれた言葉に近く、大きな数字は右側の言葉に近いということです。お立場にかかわらずスタッフにとって>と<当事者の方にとって>の両方について、お答えください。

<文章表記>

7. 「1章 HIV 感染後のメンタルヘルス」の情報のわかりやすさについて

- 当事者の方にとって： わかりやすい（ 1 2 3 4 5 ）わかりにくい
スタッフにとって： わかりやすい（ 1 2 3 4 5 ）わかりにくい

8. 「2章 抗 HIV 剤の効果に影響する薬物使用」の情報のわかりやすさについて

- 当事者の方にとって： わかりやすい（ 1 2 3 4 5 ）わかりにくい
スタッフにとって： わかりやすい（ 1 2 3 4 5 ）わかりにくい

9. 「3章 服薬管理の安定を妨げる薬物使用」の情報のわかりやすさについて

- 当事者の方にとって： わかりやすい（ 1 2 3 4 5 ）わかりにくい
スタッフにとって： わかりやすい（ 1 2 3 4 5 ）わかりにくい

10. 「4章 血液を媒体とする感染症」の情報のわかりやすさについて

- 当事者の方にとって： わかりやすい（ 1 2 3 4 5 ）わかりにくい
スタッフにとって： わかりやすい（ 1 2 3 4 5 ）わかりにくい

11. 「5章 性感染症と HIV に対する影響」の情報のわかりやすさについて
 当事者の方にとって： わかりやすい（ 1 2 3 4 5 ）わかりにくい
 スタッフにとって： わかりやすい（ 1 2 3 4 5 ）わかりにくい

12. 「この冊子全体」の情報のわかりやすさについて
 当事者の方にとって： わかりやすい（ 1 2 3 4 5 ）わかりにくい
 スタッフにとって： わかりやすい（ 1 2 3 4 5 ）わかりにくい

<レイアウト>

13. この冊子のレイアウトについて
 当事者の方にとって： 読みやすい（ 1 2 3 4 5 ）読みにくい
 スタッフにとって： 読みやすい（ 1 2 3 4 5 ）読みにくい

<内容>

14. この冊子の中に、人をいやな気持ちにしたり、傷つけたりするおそれがあるものが何かありますか？

1. ない
 2. ある [その箇所と理由：]

15. この冊子の中に、あなたが受け入れがたいと感じる内容（客観的情報・メッセージ）はありましたか？

1. ない
 2. ある [その箇所と理由：]

16. この冊子にさらに加えることが期待される内容（客観的情報・メッセージ）は、何かありますか？

1. ない
 2. ある [その箇所と理由：]

17. この冊子は有益であると思われませんか？

- 当事者の方にとって： 有益である（ 1 2 3 4 5 ）有益ではない
 スタッフにとって： 有益である（ 1 2 3 4 5 ）有益ではない

18. *当事者の方のみお答えください。： この冊子を各関係機関等で利用してほしいと思われませんか？

1. スタッフ向けの資料として利用
 2. 誰でも自由に手に取れるところに配置
 3. 必要に応じて直接手渡す
 4. 利用してほしいと思わない
 [その理由：]

19. *当事者以外の方のみお答えください。： この冊子をあなたが勤務している機関で利用したいと思いませんか？

1. スタッフ向けの資料として利用
 2. 誰でも自由に手に取れるところに配置
 3. 必要に応じて直接手渡す
 4. 利用したいと思わない
 [その理由：]

20. この冊子全体について、「良かった点」と「改善が期待される点」をそれぞれご記入ください。

良かった点：
改善が期待される点：

*ご協力ありがとうございました

【資料 5-4】

表 1 情報量に関する回答

1. 「1章 HIV 感染後のメンタルヘルスの情報量について	1 多すぎる	2 やや多い	3 適切	4 やや少ない	5 少なすぎる	NA
	1	1	10	5	3	1
2. 「2章 抗 HIV 剤の効果に影響する薬物使用」の情報量について	1 多すぎる	2 やや多い	3 適切	4 やや少ない	5 少なすぎる	NA
	1	1	14	1	3	1
3. 「3章 服薬管理の安定を妨げる薬物使用」の情報量について	1 多すぎる	2 やや多い	3 適切	4 やや少ない	5 少なすぎる	NA
	1	3	9	4	3	1
4. 「4章 血液を媒体とする感染症」の情報量について	1 多すぎる	2 やや多い	3 適切	4 やや少ない	5 少なすぎる	NA
	3	3	11	2	1	1
5. 「5章 性感染症と HIV に対する影響」の情報量について	1 多すぎる	2 やや多い	3 適切	4 やや少ない	5 少なすぎる	NA
	3	3	11	1	2	1
6. 「この冊子全体」の情報量について	1 多すぎる	2 やや多い	3 適切	4 やや少ない	5 少なすぎる	NA
	3	5	9	2	0	2

表 2 文章表記に関する回答

7. 「1章 HIV 感染後のメンタルヘルスの情報のわかりやすさについて	1 わかりやすい	2	3	4	5 わかりにくい	NA
	5	6	5	4	0	1
8. 「2章 抗 HIV 剤の効果に影響する薬物使用」の情報のわかりやすさについて	1 わかりやすい	2	3	4	5 わかりにくい	NA
	6	4	4	5	1	1
9. 「3章 服薬管理の安定を妨げる薬物使用」の情報のわかりやすさについて	1 わかりやすい	2	3	4	5 わかりにくい	NA
	4	5	3	3	3	2
10. 「4章 血液を媒体とする感染症」の情報のわかりやすさについて	1 わかりやすい	2	3	4	5 わかりにくい	NA
	4	6	2	6	1	2
11. 「5章 性感染症と HIV に対する影響」の情報のわかりやすさについて	1 わかりやすい	2	3	4	5 わかりにくい	NA
	2	7	3	8	0	1
12. 「この冊子全体」の情報のわかりやすさについて	1 わかりやすい	2	3	4	5 わかりにくい	NA
	3	4	7	4	2	1

表3 レイアウトに関する回答

13. この冊子のレイアウトについて	1 読みやすい	2	3	4	5 読みにくい	NA
	3	6	1	7	3	0

表4 内容に関する回答

14. この冊子の中に、人をいやな気持ちにさせたり、傷つけたりするおそれがあるものが、何かありますか？	1 ない	2 ある	NA
	14	6	1

「ある」の内容

- ・「薬物依存＝病気」と書かれると、薬物使用中の人がそのことを受け入れられずその後読まない可能性もあるのではないかな。
- ・これから麻薬指定を受けるとされる 5meo などを現時点で使用している人が、違法薬物使用者と同じ扱いをされていると感じるかもしれない。
- ・薬物にまったく興味のない HIV 感染者が、「こころとからだのヘルスプロモーション」という冊子名で手に取った際、期待するものとマッチしない。
- ・自分でしたことの実実をまじまじと見えてしまって、いやになった。

15. この冊子の中に、あなたが受け入れがたいと感じる内容（客観的情報・メッセージ）はありましたか？	1 ない	2 ある	NA
	9	12	0

「ある」の内容

- ・注射針・注射器の洗浄方法に関する部分について、「水道水」を用いて行う限り、ウィルス感染のみならず、ブドウ球菌症の感染などのリスクが残ることを伝えた方がよい。
- ・静脈注射（自己注射）が必要な場合について具体的に記述したほうがよい。また、再使用ではなく、ディスポーザブルの入手方法を加えた方がよい。
- ・止血帯の共用による感染の可能性があるのかどうか。
- ・同性愛者への価値観がスタッフ側にあり、プレーに関する部分で受け入れがたく感じた部分がある。
- ・違法薬物については、いつの時点の情報による違法・合法かを明記する必要があるのではないかな。
- ・これから麻薬指定を受けるとされる 5meo などを現時点で使用している人が、違法薬物使用者と同じ扱いをされていると感じる人もいるかもしれない。
- ・「注射器・注射針を安全に使用する」という意味がよくわからない。
- ・なぜ薬物に依存してしまうのか、ということよりも薬物使用のマイナスな面の情報にバランスが傾いているような気がする。
- ・肝炎の説明が長すぎる。
- ・注射器・注射針の洗浄・消毒法などを載せることについて疑問を感じる。
- ・薬と上手につきあうってことは、やっぱりやめられないんだなってこと。

16. この冊子にさらに加えることが期待される内容（客観的情報・メッセージ）はありますか？	1 ない	2 ある	NA
	4	17	0

「ある」の内容

- ・ Drug User に対するメッセージをもっと明確にしたほうがよい。
- ・ 「薬物依存の回復には治療・援助が必要」と書かれているが、どこに相談すればよいのか書いていない。医者に相談しても「やめなさい」と言うだけで終わる場合も多いのではないかと。また、「ゴメオ」は本年中に違法となる見込みである。
- ・ sexual health promotion の後に、STI に関する情報があるとよい。また、依存症患者支援組織 (DARC) なども紹介するとよいのではないかと。
- ・ 不要になった針の処分方法について。
- ・ 相談できる機関を載せる。
- ・ ストレスへの効果的な対処法を身につけていくことを勧めているが、それに関していくつか具体的な例があるとよい。
- ・ 薬物依存者の HIV 感染が判明した際、その当事者を支える人たちのケアについても少し触れられると良いのではと思う。
- ・ ストレスマネジメントやネットワークに関する情報。
- ・ この冊子を読んだ後の受け皿となる機関に関する情報。
- ・ セックスカウンセリングについての情報。
- ・ 5meo やラッシュなどの薬物に関して、もう少し詳しい情報があってもよい。
- ・ 文字が多く、視覚的に訴えるものがあればもっと良くなるのでは。
- ・ 薬物使用者当事者の体験談などを入れるのもよいのでは。
- ・ ぜひ S すると HIV の薬が効かなくなることを伝えてほしい。

表 5 冊子の有益性に関する回答

17. この冊子は有益であると思われませんか？	1 有益である	2	3	4	5 有益ではない	NA
	7	8	2	2	1	1

表 6 冊子の利用に関する回答

18. この冊子を各関係機関等で利用してほしいと思われませんか？ (PHA のみ回答)	
1. スタッフ向けの資料として利用	2
2. 誰でも自由に手に取れるところに配置	3
3. 必要に応じて直接手渡す	4
4. 利用してほしいと思わない	0
NA	0
19. この冊子をあなたが勤務している機関で利用したいと思いますか？ (PHA 以外のみ回答)	
1. スタッフ向けの資料として利用	5
2. 誰でも自由に手に取れるところに配置	1
3. 必要に応じて直接手渡す	5
4. 利用したいと思わない	1
NA	2

4. 利用したいと思わない理由

- ・冊子が多すぎる状態で、one of them になってしまう。何を重点的に相手にすすめていいか不明。
-

表7 全般的評価

20. この冊子全体について「良かった点」と「改善が期待される点」をそれぞれご記入ください

良かった点

- ・ドラッグについて正面から取り組んだ点が良かったと思う。ただ、これを読んで医療者に相談されてもその後、どう対応したらよいかわからない医療者も多いかもしれない。また、その医療者の態度によっては患者が傷つくかもしれない。
 - ・これまで感染者の心理ケアに踏み込んだ冊子が少なくなかったため、よい試みだと思う。
 - ・これまでドラッグ関係などの情報がまともになかったため良かったと思う。
 - ・イラストがトゲトゲしくなくとてもよい。内容も強制的・圧力的な感じがなく読みやすい。この冊子をきっかけとして患者と薬物使用についていろいろ話せると思う。
 - ・今までなかったメンタルヘルスや薬物使用について詳しく具体的に書かれていて良かった。
 - ・ドラッグ使用に対して実技的なアドバイスが具体的に載っている点がとても良かった。薬物使用をやめたくてもやめられない人が多いなかで、よりリスクの少ない方法が載っていて良かった。サイズが手ごろでよい。
 - ・ Drug Userに対する資料が今までなかったため、指導に使える。
 - ・ HIV患者さんにとって、知りたい・気になるけど、聞きにくい情報が提供されている。スタッフ側にとっても知識の乏しい部分でもあり、役に立つ。
 - ・ 薬物とHIVの両方の視点で書かれた冊子でとても参考になった。イラストがとてもよかった。
 - ・イラストがいい。内容が具体的ですぐに行動にいかせる。
 - ・これまで必要とされながら存在しなかった薬物使用に関する資料ができるのはすばらしい。「薬物使用するな」ではなく、感染の可能性を下げる方法が具体的にわかりやすく書いてあるところがよいと思う。
 - ・すばらしい。ゲイの感染者用の資料としても良いと思う。
 - ・薬物と抗HIV剤の関係について触れられている点がとても良い。今まで聞かれても答えられなかった問題に焦点をあててくれたものを作成してくれたことに感銘を受けた。
 - ・問題となっている点が網羅されていて良かった。
 - ・今までこのような本がなかったため、日本では新しい試みでよいと思う。
 - ・性感染症がHIVに与える影響については興味深く、必要な情報が得られた。
 - ・ HIVとストレスとの関係およびHIVと薬物依存との関係について理解できた。
 - ・ここまでよくぞ踏み込んだ内容を書かれた、という点が評価できる。
 - ・ポンプの手入れなんて誰も知らなかったです。薬をするリスクあるんですね。
-

改善が期待される点

- Drugの情報をもっと詳しく載せてほしい。使い方、安全に使用方法など。
 - ヘルペスは、一度感染すると神経節に潜み、排除されることはないということを明治した方が良いのではないか。
 - 注射器の消毒などにページを割きすぎていて、本題から少し離れている印象がある。
 - 静脈注射（自己注射）が必要な場合について具体的に記述したほうがよい。
 - 再使用ではなく、ディスポーザブルの入手方法を加えたほうがよい。
 - sexual health promotionの後に、STIに関する情報があるとよい。
 - 依存症者支援組織（DARC）なども紹介するとよいのではないか。
 - 情報内容が散漫な印象を受ける。Drug User向であれば、もう少しその部分だけにFocusしたほうがよい。
 - 表題と内容が一致しない。
 - 素人が見ても理解しやすいように全体を見直し、目次を整理することが必要。
 - 実際にこの冊子を使用し、改善を加えてゆくことで十分だと思う。
 - 注射器・注射針の洗浄・消毒方法の部分について、漂白剤の具体的な商品名等を挙げてみたらどうか。
-
- 章の区切りがわかりにくい。言葉や用語が難しく感じる部分がある。
 - 内容がある意味で大胆（過激）であるのに、表紙やタイトルの雰囲気あまりにも平和で穏便な感じがして違和感を持った。文章が一部、まわりくどく、敬語を重ねて丁寧すぎるどころがある。全体のトーンや語り口をもう少し統一したほうが良い。
 - 情報量が多いため、文字を読みなれていない人は、途中で読むことを諦めたりするかもしれない。情報をセレクトして確実に伝えたいものを絞り込んでいくことが必要なのではないか。
 - 相談機関に関する情報の追加。拾い読みできるような工夫があるとよい。最後に結びの章があるとよい。当事者の声を載せるとさらによい。
 - 「危険な」や「安全な」という言葉よりも、「感染の可能性が高い」などの表現のほうが、具体的に良いのではないか。性感染症の説明の部分で、感染経路についての部分がやや不明確かもしれない。
 - 分冊化して、レイアウトをすっきりさせるのも良いのでは。
 - もう少し、薬物と抗HIV剤との関係について詳しく載せても良いのでは。
 - スタッフ向きなものとしては内容不足で、当事者向きなものとしては内容が硬い印象がある。
 - なぜ薬物が必要な状況になるのかについて詳しく書いてほしい。
 - 字が多すぎると、あまり見向きもされない冊子になってしまう。
 - 薬物依存をどのように治療していくかについて詳しく書いてほしい。NAやAAなどの情報など。
 - 各章の項目が探しにくく、何について書かれているのか判りづらい。文章が全般的に堅い印象を受ける。
-

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
分担研究報告

個別施策層に対する固有の対策に関する研究

陽性者に関する対策の研究

PWH/A のエイズ関連施策への関与の可能性と 実現に関する研究（平成 16 年度報告）

分担研究者	長谷川 博史	JaNP+（ジャンププラス/Japanese Network of People Living with HIV/AIDS）
研究協力者	生島 嗣	特定非営利活動法人 ぶれいす東京
	尾崎 友	JaNP+
	神谷 俊樹	JaNP+
	館林 稔	HEARTY NETWORK
	外山 芳春	JaNP+
	藤原 良次	りょうちゃんず
	矢島 嵩	NEST

研究要旨

本研究では PWH/A（以下 HIV 陽性者と表記）の社会参加、特にエイズ関連施策への関与に関して HIV 陽性者側の動機と社会の需要から、日本国内においてその活動にどのような可能性があり、GIPA（Greater Involvement of People Living with HIV/AIDS）の推進にその活動が社会、特に国民の保健行動にどのような影響を与えうるかに関する調査・研究を平成 14 年度より実施している。本研究はその最終年度にあたる。

HIV 陽性者が内在化させているスティグマ（Stigma：汚名、差別的烙印、偏見）によって社会生活上の自主規制を行う現状では、その可視性は低く、その結果 HIV/AIDS に関する社会の関心もまたきわめて低い。その結果さらに社会におけるスティグマを再生産、増大させ、予納啓発の阻害要因となっている。この悪循環を断つためには医療、予防、教育、人権などの諸分野において当事者の立場から発言する HIV 陽性者スピーカー（講師）の存在が重要となってくる。

初年度は国内の感染者ネットワークとして立ち上げられた JaNP+（ジャンププラス/Japanese Network of People Living with HIV/AIDS）の HIV 陽性者ミーティング（生活、

治療に関する情報提供プロジェクト)を行いスピーカーとして活動する意欲のある人材を掘り起こし、そこに対しエイズ問題を包括的に学ぶことを目的に研修を行い、スピーカー養成プログラム作成の準備作業とした。

平成15年度は研究課題をスピーカー派遣および育成に絞り込み、本研究終了後のスピーカー活動導入にむけてより実践的な視点を重視した。研修を試行し、海外において利用実績のある研修プログラムを採用し、日本版研修プログラムへの翻訳、改訂作業を行った。

本年度はスピーカー事業の導入に向けて、研修プログラムを昨年度の研究結果を発展させ、日本の国内事情に沿ったさらに独自性の高いプログラムを開発した。これに基づき研修を試行し、参加者調査の結果を分析し、最終版を作成した。

さらに、このスピーカー養成プログラムの実践にむけて、スピーカーの支援・指導を含む事業計画のガイドラインを作成した。

A. 研究の背景

本邦においては途上国に比較して治療アクセスは比較的良好であるにも関わらず、HIV/エイズに対するスティグマが根強く残っている。そのためプライバシー漏洩不安から HIV 陽性者の自主規制を引き起こし、予防、教育、人権等の領域で社会貢献を果たすことのできる当事者が極めて少ない。現状ではスピーカー活動の効果は個人的資質に依存せざるを得ない。場合によっては「HIV 陽性者は人前に出られないもの」「HIV に感染するとひどい目にあう」といった差別的な社会状況を是認し、差別的状況を温存する可能性も有している。

真に予防、人権、医療、教育など社会面での問題解決に HIV 陽性者が貢献するためには公の場で話すスピーカーとしての役割や目的を客観的に認識し、より効果的な活動を行うことのできる適切かつ十分な技能を有していることが求められる。社会的効果を期待するにはこのようなトレーニングを受けた人材を相当数育成する必要がある。そのため目的に沿った教育やトレーニングの手法開発が必要となるが、本邦においては先行事例もなく、独自にプログラム

開発を行うことが必要である。

B. 目的

1. HIV 陽性者スピーカー養成プログラムの開発

経験のみに依拠した HIV 陽性者スピーカーではなく、合理的な方法論を備えたスピーカーの育成を目的とした。

スピーカーの活動の場面は多様で、求められる技術も多岐に渡る。そのため、スピーカーには単なる体験や知識ではなく、スピーカー自身の考えや態度を振り返る内省の姿勢、依頼者のニーズを把握する分析的視点、講演内容を整理し構築する構成力などを初めとして、広範な技能が求められる。

特に、本邦において HIV 陽性者が公の場面で個人情報を開示することにはいまだ様々な不利益を被る可能性を残している。自己の行為の結果を予測し、自らの責任において情報開示を行う自己決定能力が重要となる。

これらを科学的手法により体系的かつ実践的に構築された HIV 陽性者スピーカー養成のためのプログラム開発と事業化準備のための方向性を模索した。

2. HIV 陽性者スピーカー派遣システムの構築

公の場で自らが HIV 陽性であることを開示するスピーカーは社会的、精神的、心理的に負担やリスクが大きい。そこで HIV 陽性者がスピーカー活動を継続的に行うには、スピーカー自身の安全を考え将来に渡る支援や指導を提供する体制が必要となる。

そこで、スピーカー派遣事業の導入に先立ち、心理、技能、経済など広範な領域において支援、指導の体制のあり方を模索した。

さらに当研究においては国内外の複数のスピーカー経験者によって望ましい派遣システムの検討を行い、日本特有の問題点を加味しつつ既存の支援 NGO との協働、連携を初めとして、その支援体制の方向性を模索した。

C. 研究結果

1. HIV 陽性者スピーカー研修プログラム（オリジナル版）の開発

参照：【資料 6・1】 HIV 陽性者スピーカー研修プログラム

平成 15 年度の研究成果をふまえ、ファシリテーター、モニターおよびアドバイザーによる「Lifting the Burden of Secrecy/ A training Module for HIV-Positive Speakers」の改訂版にさらに検討を加えた。その結果、次の点が指摘された。

- (ア) 実現性を考慮し、2 日または 3 日で実施可能な研修プログラムとする。
- (イ) 多くの HIV 陽性者が参加可能なプログラムとする。ただし、スピーカーとしての実践に際しては要求水準を高く設定する。
- (ウ) 研修は継続的に行い、当プログラムはその第一段階の初心者コースとする。

(エ) 当プログラムの受講は平成 14 年度に実施した HIV/エイズに関する包括的理解を目的としたレクチャープログラムの受講を前提とする。その方法に関しては簡便化をはかる。

(オ) スピーカーの role model が少ないという本邦のエイズ事情に合わせて、受講者のスピーカー活動への準備姿勢の形成に焦点をあてる。さらに前年度版では重要視されていなかった、参加型ワークに時間の比重を多くする。

(カ) 受講者が HIV 陽性者であることを考慮し、心理的負担を軽減し、人権面への配慮した場の設定のために導入に時間をかける。

(キ) 知識、技術面に偏らず、参加型ワークショップの利点であるグループダイナミクスを活かし、気づきによって受講者の潜在能力を引き出す。

(ク) 体験学習の要素を重視し、短くても複数の実践トレーニングを行う。

(ケ) 振り返りの作業を重視する。

(コ) 当プログラムの実践に関しては開発に当たり採用した Plan/ Do/ See の手法を継続的に行い、プログラム自体の完成度を向上させる。

以上の点を加味し、プログラム最終案を作成。その結果、「Lifting the Burden of Secrecy/ A training Module for HIV-Positive Speakers」の枠組みを活かしながら、ほとんどの項目に改善を加えた結果、日本人の習慣や精神性、さらには社会事情に適応したきわめて独自性の高いプログラムとなった。受講者はスピーカー研修参加者、他団体あるいは個人活動としてスピーカー活動経験のある者、NGO 活動に参加しかつスピーカー活動に関心のある者とした。今回は単に試行としてだけでなく、大幅な変更を加え独自のワークが半数

を超え最終段階に達したプログラムの評価を行った。

【05' HIV 陽性者スピーカー研修実施概要】

・目的：

- ① スピーカーとしての準備、姿勢形成
- ② スピーカーとしての技能の向上
- ③ プログラム評価のためのモニタリング

・日時：平成 16 年 10 月 9 日から 11 日

・場所：栃木県那須高原町

・参加人数：15 名（1 名部分参加）

・参加者地域：東京、神奈川、大阪、広島、宮城

以上の結果、延べ 42 名の受講者の内、技術的、心理的に 8 名の HIV 陽性者がスピーカー活動の準備があると判断された。

2. 研修参加者調査とプログラム評価

参照：【資料 6-2】スピーカー研修参加者アンケート結果

05' HIV 陽性者スピーカー研修終了後、参加者に対し受講したトレーニングプログラムに関して受講後調査を行った。この調査結果に基づき、ファシリテーターグループとアドバイザーによる検討会を開催し、最終版の作成を行った。

【研修参加者調査概要】

- 調査対象：JaNP+ 05' HIV 陽性者スピーカー研修参加者 15 名
- 調査日時：平成 16 年 10 月 11 日午後
- 調査方法：研修終了直後に自記式調査票を配布しその場で記入を依頼

3. HIV 陽性者スピーカー派遣システムの構築

前項の研修参加者調査の結果に基づき、ファシリテーターグループおよびアドバイザーによる検討会を開催。また、研修プログラムの導入に関するプレーストリーミングを実施し、来年度以降のスピーカー

派遣事業計画を作成した。

計画作成に際し次の重要点に留意した。

- HIV 陽性者スピーカーの心理的支援体制の構築が不可欠
- HIV 陽性者のスピーチ技術に関するモニタリングと指導體制が必要。そのために講演後の聴衆調査票を作成した。
- その継続的な技能向上をはかる上級者向けプログラムの開発
- スピーカー派遣に関する事務局の必要性
- スピーカー派遣事業の周知（広報）

E. 考察

1. HIV 陽性者スピーカー研修プログラム（オリジナル版）の開発

HIV 陽性者スピーカー研修プログラムは 2 回の試行を経て、先行事例として採用した「Lifting the Burden of Secrecy/ A training Module for HIV-Positive Speakers」（APN+ : Asia-Pacific Network of People Living with HIV/AIDS 刊）の全体構成の枠組みや狙いなどは参考にしながらも、本邦の事情により適合したオリジナル版として完成度の高いものとなった。特に HIV 陽性者スピーカーの活動が認知されていない日本においてはその印象がメディアで露出される陽性者に限られており、プライバシーが守られた小グループの中でのスピーカー活動に対する認識が低い。そのため、スピーカー活動を行う状況や聴衆を分析的に把握したり、それに応じて自己の個人情報を守りつつ活動する能力など、日本独自のプログラムが必要となった。

いっぽうで、平成 14 年度、15 年度に行った講義形式の「HIV/AIDS の包括的理解」のプログラムは参加型ワークショップによる研修受講を前提とし、DVD やウェブな

どによって代替可能であるために、研修プログラム自体からは外した。今後、研修前の独自の教材開発が必要となる。

さらに当プログラムは HIV 陽性者の社会活動促進および HIV 陽性者スピーカーの概念普及の観点から、参加者を広範に求めるために可能な限り参加条件を低く設定した。その後、実践に向けて参加意欲や適性を考慮して、運営面において派遣 HIV 陽性者スピーカーの選考基準を厳しくすることとした。

スピーカーの質を維持するためには研修目的を技術面に特化した内容のものや、医療者向け、教育現場向け、企業向けなどの専門性の高いスピーカー育成を目的とした上級者向け研修プログラムの開発と提供が必要である。

2. 研修参加者調査とプログラム評価

参加者の中にはすでにスピーカー活動を行っている者も含まれていたが、これら経験者も含めてプログラムの内容は概ね高い評価を得ることができた。しかし、実施にあたり運営、進行面の不備を指摘する記述もあり、ファシリテーターとロジスティックス（運営）の分担と連携が課題として残された。このためにもファシリテーターの経験値を上げ、それをマニュアル化していくなど、運営体制の整備の必要性も指摘された。

また、受講者には参加型ワークショップの経験が少ないことが予想されるため、研修目的の明確化、全体進行のアナウンス、参加姿勢に対するガイダンスなどに工夫が必要と思われる。

本年度プログラムは当初スピーカー活動未経験者を主対象として作成されたが、実際にはその研修モジュール自体の評価を得る必要があり、経験者を含む前年度研修参加者を中心に実施された。しかし、当プロ

グラムは前年実施した翻訳版以上に経験者からの評価が高く、日本の現状に適合させた意図が功を奏していると考えられる。

さらに詳細な効果評価の必要性もあるが、むしろ HIV 陽性者の可視性を高める必要性のほうが優先されるため、この点については事業導入後実務の中で併行して実施していく。

3. HIV 陽性者スピーカー派遣システムの構築

HIV 陽性者スピーカー（講師）派遣を実施導入するにあたって、スピーカー育成と事務局運営の両事業が併行して行われる必要がある。その具体的内容は以下の通り。

1. HIV 陽性者スピーカー育成事業

(ア) 研修会の企画実施

- 年間 1 回
- 研修期間：16 時間以内（原則として 2 日以上連続して）
- 対象：感染告知後 2 年以上の HIV 陽性者
- 人数：6 名から 18 名（1～3 グループに分割できる参加型ワークショップ開催可能な人数）
- 会場：東京都内（必要に応じて大阪でも開催）

(イ) 研修プログラムの開発

- 当プログラム受講者を対象とした上級者向けの継続的な研修プログラムの開発
- スピーカー経験者を対象とした専門コース（医療、教育、企業、人権など）

2. HIV 陽性者スピーカー派遣事業運営事務局

(ア) 派遣促進（営業・広報）

- パンフレットの作成
- ウェブなどによる広報
- 外部団体への一部業務依託

- 学校、行政、医療機関との連携
- (イ) スピーカー支援（心理支援、技術支援）
 - 心理職によるカウンセリングなど、スピーカーの直接支援
 - 安全な活動環境の確認・確保、報酬、企画内容などに関する交渉場面での支援
 - スピーカー派遣依頼確認書の提出依頼
- (ウ) スピーカー指導（モニタリング、評価、技術指導）
 - 実施後聴衆アンケートの実施
 - スピーカーの講演内容に関する事前相談
 - モニターとしての随行
 - 活動実施後の振り返り
 - スピーカーの報告書による指導
 - 事例検討会の開催

上記 1. に関しては定期的に、2. に関しては継続的にルーティンとして行う。

HIV 陽性者がスピーカーとなる場合、当事者間では不可能なこともあり、心理職、広報、デザインなどの技能職に関しては外部の非当事者との連携、協働をはかる

F. まとめ

GIPA (Greater Involvement of People living with HIV/AIDS) 推進の第一歩としての HIV 陽性者スピーカー活動

本邦においてはいまだ HIV 陽性者自身に内在化されたスティグマが存在し、HIV 陽性者が社会活動を行うにはあまりにも障害が多い。当研究においては聴衆の多少や属性、場の公開・非公開などにこだわらず、スピーカー活動を幅広くとらえ、参加しやすい状況を創造し、科学的手法に基づき開発された研修プログラムに基づいて研修を

受ける機会の創出を目指した。試行段階ではあるが HIV 陽性者が社会参加の最初の一步を踏み出したと言える。

当研究においては次の成果が特筆される。

1. 海外先行事例国内導入に関する科学的的手法

HIV 陽性者スピーカー研修プログラムの開発にあたり、世界の HIV 陽性者団体に広く利用されている「Lifting the Burden of Secrecy/ A training Module for HIV-Positive Speakers (Dr. Susan Paxton ら) を用い、HIV 陽性者の社会的立場、日本人の精神性、医療環境などの国内事情を考慮、検証し、Plan/ Do/ See の手法に基づいて国内版の開発を行った。この方法は海外先行プログラムの国内導入手法として標準的手法となりうる。

2. CBO (Community Based Organization) に蓄積された経験の活用

上記海外先行事例の国内導入版を開発するにあたり、長年国内 CBO のピアサポート活動によって得られた国内のエイズ事情や日本人 HIV 陽性者の心理・行動に関する豊富な知見に基づき国内版を制作した。その結果、独自性の強いプログラム開発が実現した。さらに、日本および日本人に適合したプログラムへ変更することで、単なる技術の習得および向上にとまらず受講者自身の社会参加意欲を大幅に向上させるものとなった。

3. 事業化と継続性

プログラム開発における試行により育成された複数の HIV 陽性者スピーカーがすでに活動を開始した。このことにより、あらたにスピーカーへの継続的学習機会提供や心理的支援体制の必要性が明らかになった。その他にも、事務局機能の充実、広報活動等、事業化に必要な諸要素が検討された。

参考文献

1. 「Lifting the Burden of Secrecy/ A training Module for HIV-Positive Speakers」 (APN+ : Asia-Pacific Network of People Living with HIV/AIDS 刊)
2. Positive Development (GNP+ : Grobal Network of Network of People living with HIV/AIDS 刊)

G. 研究発表

学会発表

- 1) 海外プログラムの日本への導入による HIV 陽性者スピーカー育成プログラムの研究・開発、於第 18 回日本エイズ学会学術総会

【資料6-1】

HIV 陽性者スピーカー研修モジュール

(2005年3月版)

日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス

はじめに

ージャンププラス HIV 陽性者スピーカー派遣事業と研修モジュール開発についてー

私たち HIV 陽性者は、さまざまな場面で当事者としての視点から体験を伝えたり、その体験から学んだことを提唱することで、HIV/AIDS が抱える諸問題の解決に貢献することができます。自らの HIV 感染の事実を公言して活動する人が少ない現在の日本において、スピーカー活動をすることは、貴重であり、いっぽうで難しさも伴います。多様な HIV 陽性者の意見を代弁する意図がスピーカーに無くても、聞き手がそのスピーカーを HIV 陽性者の典型として捉えてしまうこともあるでしょう。その逆に、スピーカーが個人的な感情のはけ口として話をするにとどまり、かえって HIV/AIDS のスティグマ（差別的烙印）を再生産することもあり得ます。

また、エイズ問題への知識や認識の偏りから、立場の異なる人々を知らないうちに傷つけたり、非難する結果になってしまう場合もあります。そのためには常に自分の問題にこだわりすぎず、幅広く理解しておく必要も生まれてきます。

HIV/AIDS 問題の当事者として現実を伝えるためには、ただ当事者であるだけで十分ではなく、それなりの準備や技術が必要なのです。

そこで JaNP+ではスピーカーズ・ビューロー（講師派遣事業）をアドボカシー活動の柱のひとつとして位置づけ、海外の先行事例を研究し、日本の実情に即した HIV 陽性者スピーカーの研修プログラムの開発に取り組んできました。この事業は「厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業） 個別施策層に対する固有の対策に関する研究（主任研究者：慶應義塾大学 樽井正義）」の研究事業の一環として実施したものです。

JaNP+では平成 16 年度からスピーカーの適性や伝達技術の水準をも加味してスピーカーズ・ビューローを事業化いたします。

Part 1. 研修モジュール